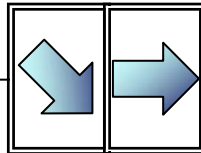


# 経済フローチャート

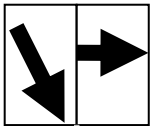
～日本経済の現状と6ヶ月見通し～

## 国内景況感

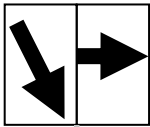
日本経済は設備投資と個人消費を両輪とする民需主体の成長を続けている。2006年度下期以降は輸出減速やIT分野での調整などにより成長テンポが鈍化する局面があるものの、国内民需の回復が持続することで先行きも安定成長が続くと考えられる。



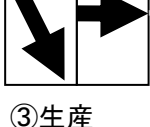
①世界経済



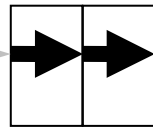
②輸出



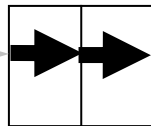
③生産



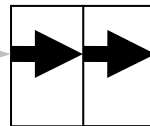
④企業収益



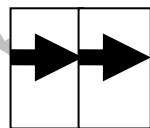
⑥雇用・賃金



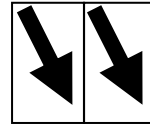
⑦個人消費



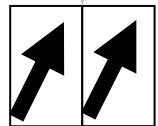
⑧住宅投資



⑨公共投資



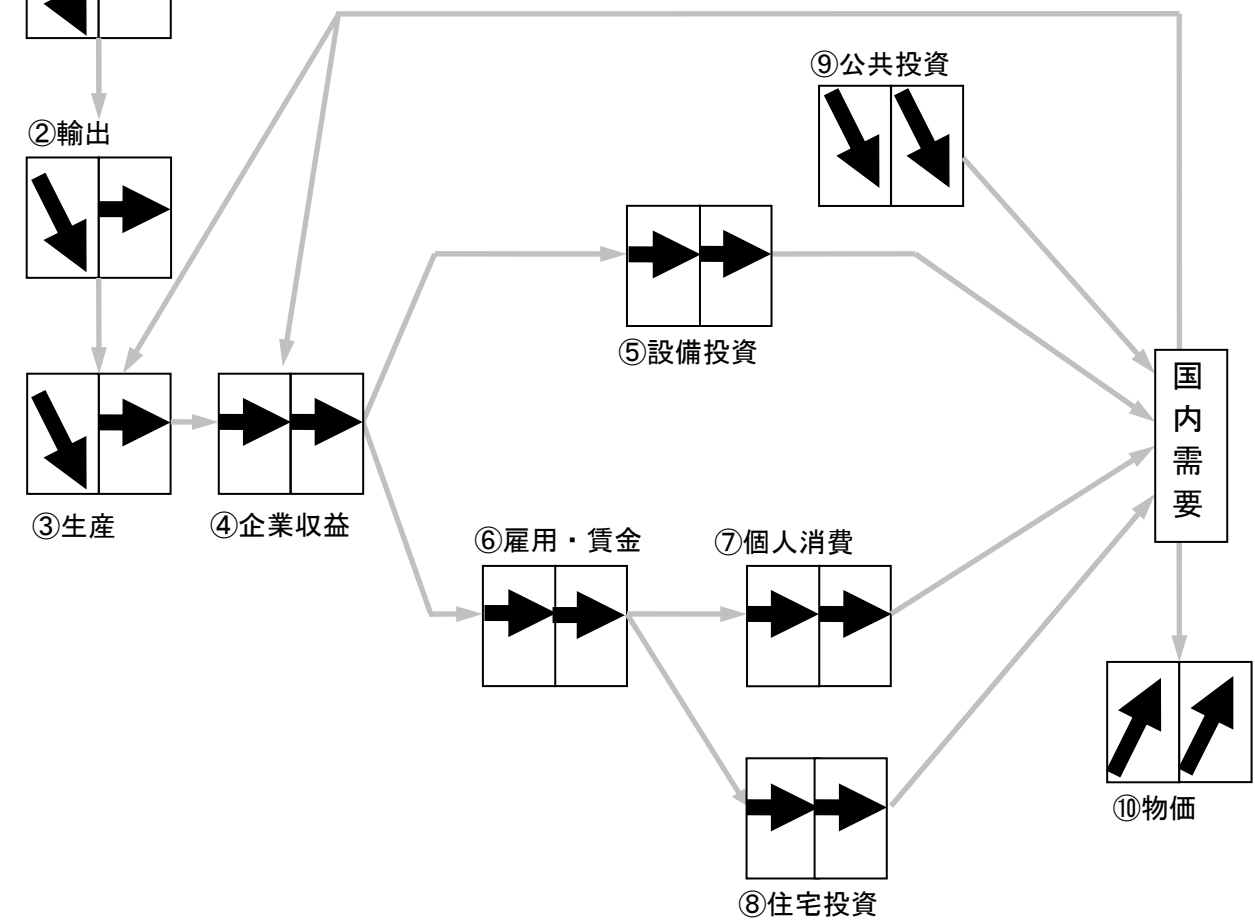
国内需要



⑩物価

現状 6ヶ月後

(2006年10-12月期) (2007年4-6月期)



(注) 矢印の方向は、当該時点でのモメンタム（景気の勢いが前期より高まる場合は↗、減速する場合は↘）を示す。

|        | コメント                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①世界経済  | <ul style="list-style-type: none"> <li>世界景気の本メントムは4-6月期にピークをつけ緩やかなペースで鈍化。</li> <li>米国経済は、住宅部門の減速傾向が持続している一方、個人消費が底堅く推移、設備投資が堅調さを維持しており、潜在成長率を小幅下回る程度の成長が持続しよう。製造業は7-9月期以降緩やかな生産調整局面に。</li> <li>欧州経済は、企業の好調が家計に波及し潜在成長率を上回る成長が持続しよう。</li> <li>アジア経済は、成長本メントムがピークアウトしたものの、中国主導で堅調さを維持する見込み。</li> </ul> |
| ②輸出    | 足元まで輸出は堅調に推移しているが、海外経済の減速が鮮明になってきていることから輸出の増加テンポは徐々に鈍化する可能性が高い。ただし、米国経済の減速は小幅にとどまる見込みであることを勘案すれば、輸出が失速することもないと考えられる。                                                                                                                                                                                 |
| ③生産    | 輸出の増加テンポが徐々に鈍化することやITセクターでの生産調整懸念があるため、先行き生産の増加ペースは鈍化する可能性が高い。ただし、ITセクターの調整は大きなものとはならず、非ITセクターの下支えも見込めることから生産活動は底堅く推移しよう。                                                                                                                                                                            |
| ④企業収益  | 原材料価格の高騰は企業収益の下押し要因となっているものの、景気回復を映じて販売数量は増加傾向を辿っている。先行きも景気は安定的に推移する見込みであり、増収増益傾向は続くと考えられる。                                                                                                                                                                                                          |
| ⑤設備投資  | バランスシート調整に目処がついていることに加え、競争力維持のための投資意欲も引き続き根強く、堅調な推移が続いている。成長期待の高まりやデフレ脱却も設備投資にとって追い風となる見込みであり、先行きも増加基調での推移が続こう。                                                                                                                                                                                      |
| ⑥雇用・賃金 | 失業率はなお高い水準にあるものの、有効求人倍率は求職数と求人数が均衡する1倍を超えて推移するなど、労働需給は緩やかに改善している。景気回復が続き、企業の採用意欲も高まっていることを考えれば、先行きも雇用情勢は改善傾向を辿ると考えられる。年内にも失業率は3%台に入ってくる可能性がある。                                                                                                                                                       |
| ⑦個人消費  | 制度変更に伴う税・社会保障負担の高まりや増税論議が消費支出を抑制する可能性があるものの、雇用・所得環境の改善が続くことから、個人消費は底堅く推移する見込み。                                                                                                                                                                                                                       |
| ⑧住宅投資  | 地価上昇に伴う用地取得難などのマイナス要因があるものの、雇用・所得環境が改善していることや、金利・住宅価格の先行き上昇が見込まれること、運用の採算性に着目した貸家投資が増えていることなどから、住宅投資は底堅く推移していく見込み。                                                                                                                                                                                   |
| ⑨公共投資  | 財政の緊縮傾向がより鮮明となる中、公共事業関係費は5年連続で削減されている。公共投資は引き続き減少基調が続くと考えられる。                                                                                                                                                                                                                                        |
| ⑩物価    | 消費者物価は緩やかな上昇が続く見込み。労働需給の改善を背景に、名目賃金の上昇や単位労働コストの下げ止まりもみられるなど、消費者物価を取り巻くファンダメンタルズは上昇を示唆している。                                                                                                                                                                                                           |